

- 問1 マレーシアの貿易に関する統計を比較すると、1980年には原油（23.8%）や天然ゴム（16.4%）といった原材料の輸出が中心でしたが、2013年には機械類が36.7%を占め、輸出総額の中で最大となっています。この変化から読み取れるマレーシアの状況として、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
1. 機械類などの工業製品の割合が大きく増加し、工業化が進展した。
 2. かつての工業製品中心の輸出から、原材料の輸出を中心とするモノカルチャー経済へ移行した。
 3. 天然ゴムの輸出額が著しく減少したため、原材料の輸出をすべて廃止した。
 4. 原油や天然ガスなどの鉱産資源の割合が、現在も輸出総額の過半数を占めている。
- 問2 東南アジアの主要な10カ国が加盟するASEAN（東南アジア諸国連合）について、その特徴や活動内容を説明した文として最も適切なものを選びなさい。（2023年 茨城県公立入試 類似）
1. 加盟国全体で一つの共通通貨を導入し、ヨーロッパ連合と同じような強力な経済統合の仕組みを完成させている
 2. 加盟国を東南アジア以外の国々にも広げ、アジア全体を一つの国家のように統一することを目指している
 3. アメリカや中国を含む環太平洋地域の広範な国々を対象とし、自由貿易の推進のみを専門に行っている
 4. 域内の経済成長を促進するだけでなく、社会・文化的発展や地域の平和と安定を維持することを目的としている
- 問3 日本がエネルギー資源の多くを依存している西アジアの地域について、その地理的特徴と原油輸出に関する記述として正しいものはどれですか。（2022年 滋賀県公立入試 類似）
1. アラブ首長国連邦は地中海沿岸に位置しており、パイプラインを用いてヨーロッパや日本へ原油を安定供給している。
 2. アラビア半島の大部分を占めるサウジアラビアは、ペルシャ湾沿岸に位置し、日本にとって最大の原油輸入先となっている。
 3. 日本はかつて西アジアからの輸入に頼っていたが、現在は北アメリカからの輸入がサウジアラビアを抜いて最大となっている。
 4. 西アジアの産油国はすべて内陸国であり、鉄道を利用して東南アジアの港まで原油を運んでから日本へ輸出している。
- 問4 中国の社会経済指標において、広大な農地面積を有しながらも1人あたりの国民総所得（GNI）が急増し、同時に年少人口の割合が低下している背景として、最も適切な理由はどれですか。（2024年 徳島県公立入試 類似）
1. 急激なインフレーションにより国民の購買力が低下し、子供を育てる経済的余裕が社会全体で失われたため
 2. 市場経済の導入による工業化で所得が向上した一方で、長期間の一人っ子政策により出生率が抑制されたため
 3. 内陸部の農地をすべて工業用地に転換したことで、農村部から都市部へ若年層が完全に流出したため
 4. 主要な輸出産業を農業から石油資源の採掘へと切り替え、所得水準の向上と引き換えに教育環境が後退したため
- 問5 主要穀物の生産と貿易の動向について、小麦と米の各統計データを踏まえた説明として、正しい記述はどれですか。（2020年 千葉県公立入試 類似）
1. 米の生産上位5か国である中国、インド、インドネシア、バングラデシュ、ベトナムは、いずれも人口密度が低いいため、生産量のほとんどを輸出に回している。
 2. 小麦の生産上位国にはロシアやカナダが含まれ、これらの国は広大な国土を活かした大規模農業により、世界市場への主要な輸出国の役割を担っている。
 3. 小麦は生産量が多い国ほど国内消費も必ず多いため、統計上、小麦の生産上位5か国が輸出上位5か国に入ることとは絶対でない。
 4. 米の輸出統計を見ると、タイやベトナムといったアジアの国々は含まれておらず、アメリカやカナダといった北米の国々が輸出の大半を占めている。
- 問6 中国の南に隣接し、インドシナ半島の東側に位置するベトナム社会主義共和国の歴史や文化について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. 食文化においては、米の粉ではなく小麦粉を原料とした「ナン」と呼ばれるパンが主食として広く食べられている。
 2. 東南アジア最大の島しょ国であり、多くの島々から構成される地理的特徴を持っている。
 3. 1960年代から70年代にかけて、社会主義勢力の拡大を阻止しようとしたアメリカ合衆国と戦争を行った歴史がある。
 4. 大分県内の国・地域別留学生数（2013年度）の統計において、韓国や中国を抜いて第1位となっている。
- 問7 中国が深圳などの沿海部に経済特区を設けた主な目的と、その仕組みとして正しい説明はどれですか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
1. 伝統的な農業を守るため、特定の地域のみ工業製品の輸入を厳しく制限した
 2. 外国の干渉を防ぐため、特定の都市に限定して外国企業との取引を禁止した
 3. 内陸部の貧富の格差を解消するため、内陸の農村部を工業化の拠点とした
 4. 外国の資本や技術を導入するため、税制などの面で優遇措置を設けた
- 問8 世界の農産物生産統計において、インドネシアが世界第1位、マレーシアが第2位の生産量を占めている農作物を次から選びなさい。この作物は、熱帯の広大な土地でプランテーション農業によって生産されています。（2024年 群馬県公立入試 類似）
1. 油ヤシ
 2. 茶
 3. 天然ゴム
 4. コーヒー
- 問9 東南アジアのある国では、1990年代末には原油などの資源が輸出の中心でしたが、近年では輸出総額の約4割以上を機械類が占めるようになっています。このような産業構造の変化をもたらした背景として、日本企業の進出を促した現地の要因を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 福岡県公立入試 類似）
1. 日本と比較して1か月あたりの平均賃金が極めて低く、安価で豊富な労働力を活用できたこと。
 2. 農業の機械化が徹底された結果、米や天然ゴムなどの農作物の輸出割合が以前よりも大幅に高まったこと。
 3. 原油の産出量が急激に増加し、燃料としての輸出だけでなく精製技術による工業化が進んだこと。
 4. 日本企業の進出が減少したことで、自国の資本のみによる伝統的な軽工業が急速に発展したこと。
- 問10 東南アジアに位置するタイの社会や文化について述べた文として、宗教的背景を踏まえた正しい説明はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）
1. 首都バンコクなどの都市部でも、僧侶が人々の家を回って食料などの寄付を受ける「托鉢」が日常的に行われている。
 2. 世界人口の約33%を占めるキリスト教が最も広く浸透しており、欧米諸国と同様の教会を中心とした生活様式が一般的である。
 3. 世界で最も信者数が多いイスラム教を信仰しており、一日に数回の礼拝を行うことが国民の義務とされている。
 4. ヒンドゥー教の教えに基づき、特定の動物を神の使いとして崇め、僧侶が街中で寄付を募る活動は法律で禁止されている。
- 問11 東南アジアなどの熱帯地域で見られる大規模な農園「プランテーション」の成り立ちと特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 千葉県公立入試 類似）
1. 夏の乾燥に強いオリーブやぶどうなどの果樹栽培と、冬の降雨を利用した小麦栽培を組み合わせることで、気候に適応した生産を行っている。
 2. 大規模な機械を導入して、広大な土地で小麦やとうもろこしなどの穀物栽培と家畜の飼育を組み合わせ、効率的な生産を行っている。
 3. かつての植民地時代に欧米諸国の資本や技術によって開発され、輸出を目的として天然ゴムや油やしなどの特定の作物を大規模に栽培している。
 4. 都市への出荷に便利な地域において、ビニールハウスなどの施設を利用することで、野菜や花を一年中計画的に栽培している。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 機械類などの工業製品の割合が大きく増加し、工業化が進展した。	マレーシアでは、1980年代には原油や天然ゴムなどの一次産品（原材料）が輸出の主役でしたが、その後の工業化政策によって電気機器などの機械類の生産が盛んになりました。2013年の統計で機械類が最大品目となっている事実は、経済構造が原材料依存から工業製品中心へと大きく変化したことを示しています。鉱産資源の割合が過半数に達しているという事実はなく、また農産物の輸出を完全に廃止したわけでもありません。
問2	答え 4 域内の経済成長を促進するだけでなく、社会・文化的発展や地域の平和と安定を維持することを目的としている	ASEANは、経済・社会・文化の各分野での協力に加え、地域の安全保障を重視している点に特徴があります。多様な宗教や政治体制を持つ国が集まっているため、互いの立場を尊重しながら話し合いによる解決を目指す姿勢が、地域の安定につながっています。共通通貨の導入や、アジア全体の統一国家を目指すといった動きは現時点ではありません。
問3	答え 2 アラビア半島の大部分を占めるサウジアラビアは、ペルシャ湾沿岸に位置し、日本にとって最大の原油輸入先となっている。	日本の原油輸入は西アジア地域への依存度が非常に高く、なかでもサウジアラビアは2019年時点で全体の3分の1以上を占める最大の輸入先です。サウジアラビアはアラビア半島の広い面積を占め、ペルシャ湾に面した地域に主要な油田が分布しているのが地理的な特徴です。
問4	答え 2 市場経済の導入による工業化で所得が向上した一方で、長期間の一人っ子政策により出生率が抑制されたため	中国では1970年代末から市場経済の仕組みを一部取り入れたことで、経済が急速に発展し、国民の所得水準が上昇しました。しかし、人口爆発を抑えるために1979年から2015年まで「一人っ子政策」が実施されたため、子供の数が劇的に減少し、統計上の年少人口の割合が低下しました。この極端な人口構成の変化は、将来の労働力不足や社会保障負担の増大という因果関係に繋がっています。
問5	答え 2 小麦の生産上位国にはロシアやカナダが含まれ、これらの国は広大な国土を活かした大規模農業により、世界市場への主要な輸出国の役割を担っている。	小麦の生産上位国であるロシア、アメリカ、カナダなどは、広大な国土を利用した商業的農業が盛んであり、自国での消費を大きく上回る生産量を確保して世界の「食糧庫」としての役割を果たしています。一方、米はアジアでの自給的な生産が中心であり、輸出に回される割合は生産量全体の数パーセント程度と、小麦に比べて貿易制限や国内消費の優先度が高いという特徴があります。
問6	答え 3 1960年代から70年代にかけて、社会主義勢力の拡大を阻止しようとしたアメリカ合衆国と戦争を行った歴史がある。	ベトナムは冷戦の影響を受け、南北に分かれて激しい戦争（ベトナム戦争）を経験しました。この際、南ベトナム側を支援したアメリカ合衆国が大規模な軍事介入を行いました。食文化では米の粉を用いた「フォー」が有名であり、地理的にはインドシナ半島の東側に位置する大陸部（半島部）の国家です。また、提供された2013年度の統計資料では、大分県内の留学生数において第3位として示されています。
問7	答え 4 外国の資本や技術を導入するため、税制などの面で優遇措置を設けた	中国は自国の工業化を促進するため、海外の進んだ技術や豊富な資金を取り込む必要がありました。そこで、法人税の減免などの優遇措置（インセンティブ）を与える「経済特区」を設置しました。これにより、海外企業が安価な労働力を求めて進出し、中国は「世界の工場」と呼ばれるまでに成長しました。
問8	答え 1 油ヤシ	東南アジアの農業統計における特徴を問う問題です。インドネシアとマレーシアの2か国は、世界における油ヤシ生産の主要な拠点となっており、特にパーム油の輸出で大きなシェアを誇ります。かつては天然ゴムの生産が中心でしたが、需要の変化に伴い油ヤシへの転換が進んだという背景があります。
問9	答え 1 日本と比較して1か月あたりの平均賃金が極めて低く、安価で豊富な労働力を活用できたこと。	東南アジアの国々では、日本の10分の1程度という低い平均賃金を背景に、生産コストを抑えたい日本企業の進出が激増しました。これにより、従来の資源輸出に頼る構造から、機械類などの高度な製造業を中心とした工業化が達成されました。この現象は「世界の工場」としての役割が周辺国へ広がった結果といえます。
問10	答え 1 首都バンコクなどの都市部でも、僧侶が人々の家を回って食料などの寄付を受ける「托鉢」が日常的に行われている。	タイでは国民の大多数が仏教を信仰しており、オレンジ色の袈裟を身にまとった僧侶が「托鉢」を行う姿は、人々の生活に溶け込んだ日常的な光景です。世界の宗教人口はキリスト教が最も多く、次いでイスラム教、ヒンドゥー教の順となっており、仏教の割合はそれらに比べると少なくなっていますが、東南アジアの特定の地域では非常に強い影響力を持っています。
問11	答え 3 かつての植民地時代に欧米諸国の資本や技術によって開発され、輸出を目的として天然ゴムや油やしなどの特定の作物を大規模に栽培している。	プランテーションは、16世紀以降の植民地支配の中で、欧米諸国が熱帯地域の労働力を利用して特定の輸出用作物を生産するために作った大規模農園です。マレーシアの天然ゴムやインドネシアの油やし（パーム油の原料）などがその代表例であり、現在もこれらの国々の経済において重要な役割を果たしています。他の選択肢は、施設園芸農業、地中海式農業、混合農業の説明です。